看護統合実習 評価表

学籍番号　　　　　　 学生氏名 　　　　　　　　　1．実習目標の到達度〔配点70点〕

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 実　習　目　標 | 自己評価 | 教員評価 |
| 1．多重課題の中で、複数の受持患者に対し個別性に合わせた看護が実践できる。 |
| 1)受持患者の看護援助に必要な情報を収集できる | A・B・C・D | A・B・C・D |
| 2) 受持患者の状況をフォーカスアセスメントできる | A・B・C・D | A・B・C・D |
| 3) 受持患者の看護問題を抽出できる | A・B・C・D | A・B・C・D |
| 4) 受持患者の看護問題の優先順位を判断できる | A・B・C・D | A・B・C・D |
| 5) 複数の受持患者の看護援助の優先度を把握できる | A・B・C・D | A・B・C・D |
| 6) 看護チームにおいて、それぞれの受持患者の援助スケジュールを調整できる | A・B・C・D | A・B・C・D |
| 7) 看護師とともに、それぞれの受持患者の看護援助を安全・安楽に実施できる | A・B・C・D | A・B・C・D |
| 8) 看護師とともに、実施したそれぞれの受持患者の看護援助を評価修正し、次の看護援助につなげることができる | A・B・C・D | A・B・C・D |
| 2．保健医療福祉チームにおける看護者の役割を理解できる。 |
| 1) 他の学生の受持患者も考慮しながら援助を調整し看護が実践できる | A・B・C・D | A・B・C・D |
| 2) 看護チームにおけるメンバーの役割が理解でき、チームの一員として行動できる | A・B・C・D | A・B・C・D |
| 3) 多様な看護方式について知り、その中でのチームリーダーの役割を説明できる | A・B・C・D | A・B・C・D |
| 4) 多職種協働の中における看護者の役割を説明できる | A・B・C・D | A・B・C・D |
| 3． 組織の中における看護管理の実際を理解できる。 |
| 1) 病棟管理者の役割と責任について説明できる | A・B・C・D | A・B・C・D |
| 2) 病棟における安全管理の方法を説明できる | A・B・C・D | A・B・C・D |
| 【評価基準】A: 少しの助言・指導を受けてできた　　 (5点)　100％B: 助言・指導を受けてできた　　　　　(4点)　 80％C: 助言・指導を受けてなんとかできた　(3点)　 60%D: 助言・指導を受けてもできなかった (2点）　40%　　 | 　　　　　　／70点 | 　　　　　／70点 |

2．実習態度〔配点10点〕

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 評価基準1．身だしなみ、挨拶、言葉遣いが適切である（2）2．積極的に質問し、疑問や不明な点を解決しながら取り組むことができる（2）3．グループメンバーと協力して取り組むことができる（2）4．学生としての責任ある行動をとることができる（2）（出欠席の状況等を含む）5．守秘義務を遵守できる（2） | 自己評価 | 教員評価 |
| 点 | 　　　　　　点 |

3．学生カンファレンス〔配点10点〕

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 評価基準 1．事前に準備（資料作成や学習）をして参加できる（2）2．グループメンバーと協力し、積極的に参加できる（3）3．自己の考えを述べることができる（2）4．グループメンバーの意見を受け止め、再考することができる（3） | 自己評価 | 教員評価 |
| 　　点 | 　　　　　　点 |

4．課題レポート〔配点10点〕

|  |  |
| --- | --- |
| 評価基準1．レポート課題に沿った内容である（2） 　　　 2． 自己の課題を明確にしている（2）3． 看護実践を省察し、自己の看護観を述べている（2）4． 誤字・脱字がなく、用いる語彙と文章構成が適切である（2）5．引用文献を適切に活用し明示している（2） | 教員評価 |
| 　 点 |

5．総合評価

|  |
| --- |
| 臨地実習指導者からのコメント臨地実習指導者氏名：　　　　　　　　　　　　 |
| 実習担当教員からのコメント実習担当教員氏名：　　　　　　　　　　　　 | 合計点 |
|  |
| 総合評価 |
|  |

【総合評価】S評価：100～90点 A評価：89～80点 B評価：79～70点 C評価：69～60点　D評価：59点以下

記録様式7号